

# 上河内地域データブック

平成28年1月

宇都宮市立図書館作成

# 目次

1 歴史	・・・	P 1
2 町名	・・・	P 4
3 自然		
(1) 河川	・・・	P 7
(2) 山	・・・	P 7
(3) ほたる	・・・	P 7
4 主要施設		
(1) 行政機関	・・・	P 7
(2) 教育施設	・・・	P14
(3) 医療機関	・・・	P17
(4) 社会福祉施設	・・・	P18
(5) 金融機関等	・・・	P20
(6) 体育施設	・・・	P20
5 民俗		
(1) まつり・行事	・・・	P21
(2) 民話と伝説	・・・	P23
6 主な文化財・遺跡等	・・・	P24
7 産業		
(1) 農業	・・・	P28
(2) 鉱業	・・・	P29
(3) 商業	・・・	P30
8 交通	・・・	P30
【参 考】宇都宮市全体から見た上河内地区の状況	・・・	P33

# 1 歴史

	できごと
古代	梨木平遺跡（高松町）縄文前期～中期 古宿遺跡（今里町）縄文中期～後期 山向遺跡（今里町）縄文・平安時代
鎌倉時代	峯山城（中里町），右岡遺跡（中里町），冬室城（冬室町）
元和6年 (1620)	宇都宮城主本多正純御用川開削と併せ逆木用水開削に着手
元和8年	上台新田へ入植（田原村から）
寛永15年 (1638)	上台新田村誕生
正保2年 (1645)	「高德村」を「高松村」に改める
寛文6年 (1666)	関白村，今里村枝郷から独立
寛文10年	土手下新田村誕生
宝永5年 (1708)	高松村の農民洪水と降灰のため免の低率固定化を領主に嘆願
享保8年 (1723)	五十里大洪水村々の被害甚大
天保9年 (1823)	宇都宮大明神で関白獅子舞を催す 関白獅子舞の技法を西組の伝授する
安政2年 (1855)	上小倉村その他の村々江戸大地震につき調達金仰せ付けられる
明治9年 (1876)	土手下新田と上台新田が合併して「上田村」が誕生
19年	東北本線宇都宮－古田－芦沼－下小倉－長久保－矢板のコースで通過
22年	市町村制施行 宮山田，冬室，関白，今里，松田新田，中里，免ノ内，高松，金田，上田が合併して羽黒村が誕生

	上小倉，下小倉，芦沼が合併して絹島村が誕生
23年	暴風雨にて東北本線西鬼怒川鉄橋傾斜し汽車不通
26年	下小倉に絹島地区駐在所を設置
27年	午の水（洪水）で西芦沼の鉄橋が崩壊 西芦沼一帯の被害甚大
28年	度重なる修復工事により，東北本線宇都宮－宝積寺－氏家をとるコースに変更
29年	洪水により今里地区の水田のほとんどが水没
31年	逆木治水工事竣工
43年	羽黒農業補修学校開校
大正3年 (1914)	洪水により絹島地区浸水し，耕地は一面流水
4年	絹島農業補修学校開校
7年	芦沼に駐在所を設置
11年	上平の渡し県営になる 黒淵の渡し橋梁設置のため廃止
昭和3年 (1928)	西鬼怒川発電所工事竣工，営業開始
5年	今里の渡し，木橋が設けられたため渡し制度廃止
12年	今里郵便局電報事務取扱開始
13年	今里郵便局電話取扱業務開始
24年	今市地震，宇都宮農業高等学校上河内分校開校
30年	羽黒村・絹島村の合併により，上河内村が誕生
31年	中央小学校開校
34年	中里原地内に庁舎完成
35年	村内全域に降雹被害，逆木堤防完成
36年	台風6号，村内各地に出水被害
37年	羽黒山林道完成
40年	鶴ヶ峰・小倉中学校統合により上河内中学校開校
42年	東保育園と西保育園を開園
45年	中保育園を開園
48年	村民運動場（現上河内運動場）完成
49年	中央公民館（現上河内生涯学習センター）完成

51年	上河内体育館完成
53年	東山霊園完成 全天候型テニスコート完成
57年	郷土文化保存伝習施設（現上河内民俗資料館）完成
58年	西部地区簡易水道通水開始
60年	新庁舎開庁
61年	常備消防開始
62年	上河内老人福祉センターを開設
平成元年 (1989)	上河内幼稚園開園
2年	宇都宮農業高等学校上河内分校閉校
3年	東部地区簡易水道事業に着手
4年	町営バス運行開始 上河内図書館を開設
5年	緑水公園を開設
6年	学校給食センターを開設 町制施行
7年	上河内町農業公社発足
10年	上小倉分校校舎を利用し中央公民館「ひばり館」オープン
11年	せせらぎ公園を開園
13年	代替バス氏家駅へ路線延長 上河内北小学校閉校
14年	町内循環バス開始 地域交流館「ほたるの里梵天の湯」を開設
15年	上河内保健センターを開館
17年	総合保育園「ゆずのこ保育園」を開園
18年	公共下水道供用開始
19年 (2007)	宇都宮市と合併 上河内町中央公民館、同ひばり館を「上河内生涯学習センター」 （本館、ひばり館）に名称変更 上河内サービスエリアスマート I C の恒久設置
22年	上河内サービスエリアスマート I C のフル I C 化
26年	上河内生涯学習センターひばり館を閉館

※参考資料 『上河内町制施行10周年記念要覧』上河内町 2004年  
『宇都宮市・上河内町・河内町 合併の記録』宇都宮市 2007年  
『市政概要 平成27年度版』宇都宮市議会事務局 2015年

『上河内村史 上巻』ぎょうせい 1986年

『上河内村史 下巻』ぎょうせい 1986年

『上河内町史 続編』宇都宮市 2008年

『事務概要 平成27年度』

宇都宮市教育委員会生涯学習課 2015年

『かみかわちノート』上河内町企画課／編 上河内町 2007年

## 2 町名

町名	由来等
あしぬまちょう 芦沼町	江戸期～明治22年の村名。はじめ宇都宮藩領，寛永3年下総佐倉藩領，明和元年から再び宇都宮藩領。 明治4年の廃藩置県による宇都宮県を経て，明治6年宇都宮県の廃止により栃木県に所属，明治22年の町村制実施により，絹島村の大字名となる。昭和30年からは上河内村の大字。 平成19年の宇都宮市との合併により現在の町名となる。
いまざとちょう 今里町	江戸期～明治22年の村名。江戸初期関白村・松田新田を分村。はじめ宇都宮藩領，寛延3年下総佐倉藩領，明和元年から再び宇都宮藩領。 明治4年の廃藩置県による宇都宮県を経て，明治6年宇都宮県の廃止により栃木県に所属，明治22年の町村制実施により，羽黒村の大字名となる。昭和30年からは上河内村の大字。 平成19年の宇都宮市との合併により現在の町名となる。
うわだちょう 上田町	元和8年田原村から上台新田へ入植。 寛永15年上台新田村誕生。 寛文10年土手下新田村誕生。 明治4年の廃藩置県による宇都宮県を経て，明治6年宇都宮県の廃止により栃木県に所属，明治9年土手下新田と上台新田が合併して「上田村」が誕生。明治22年の町村制実施により，羽黒村の大字名となる。昭和30年からは上河内村の大字。 平成19年の宇都宮市との合併により現在の町名となる。
かねたちょう 金田町	江戸期～明治22年の村名。はじめ宇都宮藩領，寛延3年下総佐倉藩領，明和元年から再び宇都宮藩領。

	<p>明治4年の廃藩置県による宇都宮県を経て、明治6年宇都宮県の廃止により栃木県に所属、明治22年の町村制実施により、羽黒村の大字名となる。昭和30年からは上河内村の大字。</p> <p>平成19年の宇都宮市との合併により現在の町名となる。</p>
<small>かみこぐらちょう</small> <small>上小倉町</small>	<p>江戸期～明治22年の村名。はじめ宇都宮藩領、寛延3年下総佐倉藩領、明和元年から再び宇都宮藩領。</p> <p>明治4年の廃藩置県による宇都宮県を経て、明治6年宇都宮県の廃止により栃木県に所属、明治22年の町村制実施により、絹島村の大字名となる。昭和30年からは上河内村の大字。</p> <p>平成19年の宇都宮市との合併により現在の町名となる。</p>
<small>かんぱくちょう</small> <small>関白町</small>	<p>江戸期～明治22年の村名。寛文6年今里村枝郷から独立。はじめ宇都宮藩領、寛延3年下総佐倉藩領、明和元年から再び宇都宮藩領。</p> <p>明治4年の廃藩置県による宇都宮県を経て、明治6年宇都宮県の廃止により栃木県に所属、明治22年の町村制実施により、羽黒村の大字名となる。昭和30年からは上河内村の大字。</p> <p>平成19年の宇都宮市との合併により現在の町名となる。</p>
<small>しもこぐらちょう</small> <small>下小倉町</small>	<p>江戸期～明治22年の村名。はじめ宇都宮藩領、寛延3年下総佐倉藩領、明和元年から再び宇都宮藩領。</p> <p>明治4年の廃藩置県による宇都宮県を経て、明治6年宇都宮県の廃止により栃木県に所属、明治22年の町村制実施により、絹島村の大字名となる。昭和30年からは上河内村の大字。</p> <p>平成19年の宇都宮市との合併により現在の町名となる。</p>
<small>たかまつちょう</small> <small>高松町</small>	<p>江戸期～明治22年の村名。宇都宮藩領と宇都宮明神領。</p> <p>正保2年「高德村」を「高松村」に改める。</p> <p>明治4年の廃藩置県による宇都宮県を経て、明治6年宇都宮県の廃止により栃木県に所属、明治22年の町村制実施により、羽黒村の大字名となる。昭和30年からは上河内村の大字。</p> <p>平成19年の宇都宮市との合併により現在の町名となる。</p>

<p>なかざとちょう 中里町</p>	<p>室町時代から戦国時代に中里郷といった。 江戸期～明治 22 年の村名。 はじめ宇都宮藩領。 元禄 4 年から宇都宮藩と旗本牧野氏の相給。 延享 2 年から宇都宮藩・旗本牧野氏および幕府の 3 給。(このうち宇都宮藩領は寛延 3 年から明和元年まで下総佐倉藩領) 天保 12 年から宇都宮藩・牧野氏・吹上藩の相給。 明治 4 年の廃藩置県による宇都宮県を経て, 明治 6 年宇都宮県の廃止により栃木県に所属, 明治 22 年の町村制実施により, 羽黒村の大字名となり, 昭和 30 年からは上河内村の大字。 昭和 19 年の宇都宮市との合併により現在の町名となる。</p>
<p>ふゆむろちょう 冬室町</p>	<p>江戸期～明治 22 年の村名。はじめ宇都宮藩領, 寛延 3 年下総佐倉藩領, 明和元年から再び宇都宮藩領。 明治 4 年の廃藩置県による宇都宮県を経て, 明治 6 年宇都宮県の廃止により栃木県に所属, 明治 22 年の町村制実施により, 羽黒村の大字名となる。昭和 30 年からは上河内村の大字。 平成 19 年の宇都宮市との合併により現在の町名となる。</p>
<p>まつだしんでんちょう 松田新田町</p>	<p>江戸期～明治 22 年の村名。江戸初期今里村から分村。はじめ宇都宮藩領, 寛延 3 年下総佐倉藩領, 明和元年から再び宇都宮藩領。 明治 4 年の廃藩置県による宇都宮県を経て, 明治 6 年宇都宮県の廃止により栃木県に所属, 明治 22 年の町村制実施により, 羽黒村の大字名となる。昭和 30 年からは上河内村の大字。 平成 19 年の宇都宮市との合併により現在の町名となる。</p>
<p>みややまだちょう 宮山田町</p>	<p>江戸期～明治 22 年の村名。はじめ宇都宮藩領, 寛延 3 年下総佐倉藩領, 明和元年から再び宇都宮藩領。 明治 4 年の廃藩置県による宇都宮県を経て, 明治 6 年宇都宮県の廃止により栃木県に所属, 明治 22 年の町村制実施により, 羽黒村の大字名となる。昭和 30 年からは上河内村の大字。 平成 19 年の宇都宮市との合併により現在の町名となる。</p>



<p>めんのうちちょう 免ノ内町</p>	<p>江戸期～明治 22 年の村名。旗本神保氏知行。 明治 4 年の廃藩置県による宇都宮県を経て, 明治 6 年宇都宮 県の廃止により栃木県に所属, 明治 22 年の町村制実施によ り, 羽黒村の大字名となる。昭和 30 年からは上河内村の大 字。 平成 19 年の宇都宮市との合併により現在の町名となる。</p>
<p>しょうふうだい 松風台</p>	<p>上河内町の大字名。平成 19 年の宇都宮市との合併により現 在の町名となる。</p>

※参考資料 『角川日本地名大事典 9 栃木』角川書店 1984 年  
『栃木県市町村誌』栃木県町村会 1955 年  
『栃木県の地名』平凡社 1988 年  
『うつのみやの地名と歴史散歩』下野新聞社 2015 年

### 3 自然

#### (1) 河川

・上河内地区(旧上河内村)は, 河内郡の北端に位置し, 北境から東境を鬼怒川が, 西部の山裾を山田川が, 両河川の間を西鬼怒川が南流している。鬼怒川は地区の北部では東流し, 上小倉あたりからは流路を南にとって流下し, 西鬼怒川は高間木で鬼怒川から分水して北部山地の山麓に沿って流れ, 今里から南東の芦沼に向かって河川改修による流路を流れている。山田川は北部山地と西側山地に源を發して, 山田から関白・今里を経て金田に向かって流れている。

※参考資料 『うつのみやの地名と歴史散歩』塙静夫/写真・文

下野新聞 2015 年

・鬼怒川分流付近の西鬼怒川(にしきぬがわ)

穀倉地帯を潤しながら流れるこの川は, 上河内村高間木で鬼怒川本流から分かれ, 河内町白沢で再び本流に合流する。

古く寛文 8 年に, 鬼怒川から開削分流したことにはじまる。度重なる洪水対策として明治 31 年, 逆木地内の山を貫通取水口としたが, 再び洪水に見舞われ, この取水口も使用できなくなるなど, 災害の負担は農民の上に重くのしかかった。このため, 国営により塩屋町佐貫を取水口に鬼怒川をサイホンで横断する工事が行われ昭和 41 年に完成した。

この流れは穀倉地帯を潤し, 「小倉米」と銘打ったうまいコシヒカリ生産の源となっている。

※参考資料 『とちぎの道と川百選ガイドブック』栃木県企画部広報課/編 栃木県研広報協会 1991 年

## (2) 山

・地区の東部は関東平野の北端で、台地と低地が段差をもって並列し、鬼怒川と西鬼怒川沿いに平坦な沃地を展開している。山田川を境にして地区の西部は、北から羽黒山（四五八メートル）・矢倉山（四〇九メートル）・妙見山（三三〇メートル）・高館山（四七七メートル）など、傾斜15度以上の山が連なって山地をなしている。また、傾斜10度内外の緩やかな起伏の丘陵が、山田川流域北部の羽黒山を中心とする山地と西側山地のそれぞれの山麓部にみられる。

※参考資料 『うつのみやの地名と歴史散歩』 埴静夫／写真・文

下野新聞 2015年

・羽黒山 ハイキング&上河内温泉 「おはぐろさん」の愛称で地元住民に親しまれている羽黒山。標高458メートルの低山で、山頂には倉稻魂命（うかのみたまのみこと）を祀る羽黒山神社がある。車でも頂上付近まで登ることができる。参道ルートは、大きな鳥居からスタートし、砂利道から石畳へと変わる林道を進んでいくと次第に坂が急になり、最後の難関「カラッソ坂」はロープを頼りに上るほどの急こう配となっている。

この坂、身も心も煩惱から離れて清らかになる“からっぼ”という意味がこめられているという。

※参考資料 『宇都宮本』 榎出版社 2013年

## (4) ほたる

・「里山を考える会」 活動を始めたのは平成十三年。町内に生息するほたるの調査と生息マップを作成し、川の水質調査を実施。田んぼのビオトープづくりでは休耕田を整備し、2,500㎡の田んぼを復元して、生物の生息環境の改善を試みた。里山の自然環境の生態系を壊さずに、その保全に力を尽くす活動を進めている。

※参考資料 『かみかわちノート』 上河内町企画課／編 上河内町 2007年

## 4 主要施設

### (1) 行政機関

#### ア 行政施設

・上河内地域自治センター 所在地 中里町181-3

敷地面積 9,434.66 ㎡

延床面積 3,068 ㎡

建設費 876,940 千円

駐車台数 207 台

施設	1階	地域づくり課，保健福祉課，産業土木課 住民相談室2，多目的室
	2階	地域経営課，大会議室，中会議室
	3階	小会議室，地域行政資料室，議場ホール 打合せ室2，応接室
供用開始	昭和60年9月2日	(上河内村役場)
	平成19年3月31日	(上河内地域自治センター)
沿革	昭和30年4月	絹島村と羽黒村との合併により上河内村が誕生。旧絹島村役場(下小倉1,534)に役場本庁，旧羽黒村役場(中里1,012)に支所が置かれた。
	昭和34年7月	本庁と支所を合併し，新庁舎を現在の場所に新築。
	昭和60年9月	現在の建物が建築され，業務開始。
	平成19年3月	宇都宮市との合併により「上河内地域自治センター」に名称変更。

※参考資料 『市政概要 平成27年度版』宇都宮市議会事務局 2015年  
『上河内村史 下巻』上河内村 1986年  
『上河内町史 続編』宇都宮市 2008年  
『栃木県町村合併誌』第4巻 栃木県 1957年  
「宇都宮市公式Webサイト」(2015年12月4日現在)

## イ 警察

- ・ 中里駐在所                      所在地 中里町 1250 番地 1
- ・ 下小倉駐在所                  所在地 下小倉町 1534 番地

※参考資料 「栃木県警察ホームページ」(平成27年12月5日現在)

## ウ 消防

- ・ 管轄消防署(常備消防)
- ・ 中央消防署 昭和53年6月1日開署  
所在地 大曾2丁目2番21号  
業 務

庶務，予防，警防，救急，救助各グループで構成  
車 両

消防ポンプ自動車(2台)，水そう付消防ポンプ自動車(2台)，  
はしご付消防自動車，救助工作車，救急自動車(2台)，  
資材輸送車，指揮車(2台)，査察車(2台)，起震車

・ **上河内分署** 昭和 61 年 3 月 10 日開署

**所在地 松田新田町 116 番地 4**

業 務

水火災等の警戒防ぎよに関すること。

救急活動に関すること。

消防隊の編成に関すること。

防火対象物及び地水利の調査に関すること。

立ち入り検査及び防火指導に関すること。

所管の機械器具その他営造物等の保守管理に関すること。

災害情報の収集に関すること。

車 両

消防ポンプ自動車，水そう付消防ポンプ自動車，救急自動車

・ **消防団 宇都宮市消防団上河内分団**

1 分団 12 個部で構成，

団員 207 名，消防ポンプ自動車 4 台，小型動力ポンプ付積載車 8 台

各部	車庫所在地	車 両
第 1 部	中里町	消防ポンプ自動車
第 6 部	上田町	消防ポンプ自動車
第 10 部	下小倉町	消防ポンプ自動車
第 12 部	芦沼町	消防ポンプ自動車
第 2 部	関白町	小型動力ポンプ付積載車
第 3 部	高松町	小型動力ポンプ付積載車
第 4 部	宮山田町	小型動力ポンプ付積載車
第 5 部	今里町	小型動力ポンプ付積載車
第 7 部	金田町	小型動力ポンプ付積載車

第 8 部	上小倉町	小型動力ポンプ付積載車
第 9 部	下小倉町	小型動力ポンプ付積載車
第 11 部	芦沼町	小型動力ポンプ付積載車

※参考資料 『消防年報 平成 26 年度版』宇都宮市消防本部 2014 年

## ・栃木県消防学校

**所在地 中里町 248**

設置目的

消防組織法第 51 条に基づき、消防職員又は消防団員の教育訓練を行う

沿 革

昭和 3 7 年 7 月 宇都宮市今宮に開校

昭和 4 6 年 1 2 月 本館増築

昭和 5 3 年 3 月 屋内訓練上新設

昭和 5 7 年 2 月 屋外訓練場（校庭）整備

昭和 5 7 年 6 月 体力錬成施設新設

平成 4 年 1 0 月 宇都宮市中里町（旧河内郡上河内村大字中里（旧県立宇都宮農業高等学校上河内分校跡））に移転

組 織

校長，教頭，職員 1 1 名

事務分掌

- ・市町の消防職員及び消防団員等に対する教育訓練に関すること
- ・県民に対する防災意識の高揚及び防災知識の普及等に関すること

※参考資料 「栃木県公式 Web サイト」（2015 年 12 月 4 日確認）

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/c53/system/desaki/desaki/1181203210189.html>

## ・栃木県防災館

**所在地 中里町 248**

## 設置目的

県民の防災意識の高揚及び防災知識の普及を図り、もって安全な環境の確保に資する

## 事業

- 一 防災に関する教育及び訓練に関すること
- 二 防災に関する資料の展示に関すること
- 三 その他、一 二の目的を達成するために必要な事業

利用案内については、栃木県公式 Web サイト及び栃木県防災館 Web サイトを参照のこと

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/c53/prevent/bousai/chishiki/1181881836579.html>

<http://www.t-bousaikan.jp/index.html>

※参考資料 栃木県防災館設置及び管理条例（平成四年六月十二日 栃木県条例第二十五号）

## エ 水道

### (7) 浄水場・配水場

#### ・松田新田浄水場 所在地 今里町 1 1 8 8 - 2

敷地面積	76,707 m <sup>2</sup>
水源	鬼怒川
浄水能力	124,000 m <sup>3</sup> /日
施設概要	フロック形成池 600 m <sup>3</sup> ×4 池 薬品沈殿池 800 m <sup>3</sup> ×4 池 急速ろ過池 80 m <sup>3</sup> ×12 池 浄水池 1,000 m <sup>3</sup> ×2 池 配水池 20,000 m <sup>3</sup> ×2 池 7,500 m <sup>3</sup> ×2 池

#### ・今里浄水場 所在地 今里町 1 1 8 - 2

水源	地下水
浄水能力	988 m <sup>3</sup> /日
施設概要	浄水池 20.5 m <sup>3</sup> ×2 池

送水ポンプ 7.5kw×1台  
11kw×1台

・今里配水場 所在地 今里町

施設概要 (東部) 配水池 615 m<sup>3</sup>×2池  
(西部) 配水池 200 m<sup>3</sup>×2池  
167.5 m<sup>3</sup>×2池

・謡辻（うどうつじ）浄水場 所在地 宮山田町 1 1 3 8 - 1

水源 地下水  
浄水能力 44 m<sup>3</sup>/日  
施設概要 配水池 52 m<sup>3</sup>

(イ) 取水場

・高間木取水場 所在地 宮山田町 1 8 6 7 - 2

目的 高間木取水堰で鬼怒川の本流から取水した水を松田新田浄水場に送る施設  
敷地面積 4,281 m<sup>2</sup>  
施設概要 沈砂池 308 m<sup>2</sup>×2池  
拌砂池 169 m<sup>2</sup>×1池

・高間木取水堰（高間木取水口） 所在地 宮山田町 1 3 0 2

目的 鬼怒川から河川水を取水するための堰  
施設概要 洪水吐門 2, 土砂吐門, 取水扉門, 取水隧道

(ウ) 終末処理場

・上河内水再生センター 所在地 芦沼町 2 1 7 7 - 2

敷地面積 17,700 m<sup>2</sup>  
計画処理区域面積 (全体計画) 331.9ha  
(事業計画) 248.2ha うち特環処理区 78.2ha  
計画処理人口 (全体計画) 7,200人  
(事業計画) 3,870人

計画処理水量 (全体計画) 4,600 m<sup>3</sup>/日  
 (事業計画) 2,440 m<sup>3</sup>/日  
 処理方式 オキシデーションディッチ法  
 排除方式 分流式  
 事業年度 平成15年度～平成30年度(予定)  
 建設費 11億4,230万円(平成18年度末まで)  
 処理開始 平成18年3月31日

※参考資料 『市政概要 平成27年度版』 宇都宮市議会事務局 2015年  
 『事業年報(水道・下水道・生活排水処理事業)  
 平成27年度版』 宇都宮市上下水道局 2015年  
 『宇都宮市上下水道局処務規程』2004年  
 『うつのみやの水道』宇都宮市水道局 1986年  
 「宇都宮市上下水道局Webサイト」(平成27年12月4日確認)

## オ 公園・緑地(街区公園は除く)

	名 称	所在地	種 別	面 積	備 考
1	ユッピーの森	今里町1,037-1	近隣公園	24,379 m <sup>2</sup>	
2	上河内緑水公園	宮山田町2,981-2	地区公園	37,668 m <sup>2</sup>	
3	上河内せせらぎ公園	上田町1,061-1	街区公園	3,671 m <sup>2</sup>	
4	中里町権現山緑地	中里町158-8	緑地	76 m <sup>2</sup>	
5	中里原緑地	中里町3,011-1	緑地	8,047 m <sup>2</sup>	

## (2) 教育施設

ア 小学校 ※学級数, 児童数は平成27年5月1日現在

### ・上河内東小学校 所在地 下小倉町1302

学級数: 7 児童数: 154

明治6年 有隣舎(下小倉清泉寺)・求道舎(上小倉延寿寺)として設立。

明治20年 有隣舎と求道舎を合併し, 下小倉稲荷前2672に, 二階建新校舎を建築移転し, 校舎を下小倉尋常小学校と改めた。



- 明治 24 年 絹島尋常高等小学校と改めた。
- 明治 35 年 9 月 28 日未曾有の暴風雨のため校舎が全壊した。このため再び延寿寺・清泉寺に移り授業を行った。
- 明治 37 年 下小倉 1392 の地に校地を求め新校舎を新築，両寺院より移り授業を行った。
- 昭和 16 年 絹島村国民学校と校名を変更した。
- 昭和 22 年 絹島村立絹島小学校と改称。
- 昭和 30 年 羽黒村・絹島村の合併により上河内村立小倉小学校，同上小倉分校，同芦沼分校と改称。
- 昭和 42 年 小倉中学校の跡地に移転し，上河内村立東小学校，同上小倉分校，同芦沼分校と改称。
- 昭和 47 年 芦沼分校閉校。
- 平成 6 年 町制施行により，上河内町立東小学校と改称。
- 平成 10 年 上小倉分校閉校。
- 平成 19 年 宇都宮市立上河内東小学校と改称。

・ **上河内西小学校**      **所在地** 関白町 471

- 学級数：6    児童数：122
- 昭和 22 年 羽黒村立羽黒小学校，羽黒村立今里小学校と改称。
- 昭和 30 年 羽黒村・絹島村の合併により，上河内村立中里小学校，上河内村立今里小学校と改称。
- 昭和 42 年 上河内村立中里小学校と今里小学校を合併し，鶴が峰中学校跡に上河内村立西小学校を開校。
- 平成 6 年 町制施行により，上河内町立西小学校と改称。
- 平成 19 年 宇都宮市上河内西小学校と改称。
- 平成 25 年 創立 140 周年記念式挙

・ **上河内中央小学校**      **所在地** 中里町 201-1

- 学級数：9    児童数：221
- 昭和 31 年 羽黒小学校上田分校が独立して，上河内村立中央小学校創立。今里小学校より松田新田学区を移籍。
- 平成 6 年 町制施行により，上河内町立中央小学校に改称。

平成 19 年 宇都宮市上河内中央小学校と改称。

**イ 中学校** ※学級数，児童数は平成 27 年 5 月 1 日現在

・ **上河内中学校**                      **所在地 中里町 162**

学級数：11 生徒数：267

昭和 22 年 羽黒村立羽黒中学校として，中里小学校の 6 教室を借用し創立開校する。絹島村立絹島中学校として，絹島小学校の 6 教室を借用し創立開校する。

昭和 30 年 羽黒村・絹島村の合併により，上河内村立鶴が峰中学校，上河内村立小倉中学校と改称。

昭和 40 年 鶴が峰中学校と小倉中学校を統合して，上河内村立上河内中学校発足。

平成 6 年 町制施行により，上河内町立上河内中学校と改称。

平成 19 年 宇都宮市上河内中学校と改称。

- ※参考資料 『教育要覧 平成 26 年』 宇都宮市教育委員会 2014 年  
『市政概要 平成 27 年度版』 宇都宮市議会事務局 2015 年  
『上河内村史 下巻』 ぎょうせい 1986 年  
『上河内町史 続編』 ぎょうせい 2008 年  
『風土の中の栃木県校歌集 上巻・小学校編』  
栃木県連合教育会 1987 年  
『風土の中の栃木県校歌集 下巻・中・高・大編』  
栃木県連合教育会 1988 年  
『栃木県教育史 第三巻』 栃木県教育史編さん委員会 1986 年

**ウ 幼稚園**

・ **上河内幼稚園**                      **所在地 中里町 572-3**

学級数：9 学級

(年長 3 学級 年中 3 学級 年少 3 学級 満 3 歳児 0 学級)

園児数：229 名

- ※参考資料 宇都宮地区幼稚園ガイドブック『幼稚園・認定こども園ガイド』  
2015 年 宇都宮地区幼稚園連合会／発行

## エ 図書館

### ・上河内図書館 所在地 中里町182-1

開館	平成4年9月1日
敷地	3,707.89 m <sup>2</sup>
延床面積	1,000.06 m <sup>2</sup>
施設概要	1階 一般開架コーナー，児童コーナー，事務室 雑誌コーナー，視聴覚コーナー，閉架書架 2階 調査学習室，多目的ホール，談話コーナー， 映写ライブラリー室
蔵書数	85,757冊（平成27年3月31日現在）

※参考資料 『市政概要 平成27年度版』宇都宮市議会事務局 2015年

## オ 民俗資料館

### ・上河内民俗資料館 所在地 中里町198-2

開館	平成19年4月1日
敷地	2,400.50 m <sup>2</sup>
事業内容	上河内地域を中心とした民具・農具の展示 民俗芸能や伝統食などのパネル等による紹介 雛人形・五月人形展等の企画展の実施

※参考資料 『市政概要 平成27年度版』宇都宮市議会事務局 2015年

## (3) 医療機関

### ア 診療所

	名称	所在地	診療科目
1	いちほらファミリークリニック	中里町322	外科，内科，小児科， 整形外科，消化器内科
2	手塚クリニック	下小倉町2213-5	内科，消化器科，小児科
3	特別養護老人ホーム 祥豊苑医務室	宮山田町915	内科
4	油布医院	中里町175-8	内科，小児科，放射線科， 麻酔科

## イ 歯科診療所

	名 称	所在地	診療科目
1	上河内歯科診療所	免の内町 539-3	歯科, 小児歯科, 歯科 口腔外科
2	名取歯科クリニック	中里町 2702-25	歯科, 矯正歯科, 小児 歯科, 歯科口腔外科

※参考資料 『栃木県病院・診療所名簿 平成 26 年度』

栃木県保健福祉部医事厚生課 2014 年

## (4) 社会福祉施設

### ア 老人福祉施設

#### (7) 居宅介護支援（居住サービス計画作成・ケアマネジャー）

	名 称	所在地
1	上河内在宅介護支援センター	下小倉町 1313-26
2	特別養護老人ホーム 祥豊苑	宮山田町 915

#### (1) 介護予防支援（地域包括センター）

	名 称	所在地
1	上河内地域包括支援センター	中里町 2687-4

#### (7) 訪問介護（ホームヘルプサービス）

	名 称	所在地
1	上河内地域包括支援センター	中里町 2687-4

#### (1) 通所介護〔療養通所介護含む〕（デイサービス）

	名 称	所在地
1	デイホーム となり	芦沼町 1290
2	上河内デイサービスセンター	下小倉町 1313-26
3	羽黒レクリエーションセンター	中里町 1434

(オ) 短期入所生活介護（ショートステイ）

	名 称	所在地
1	特別養護老人ホーム 祥豊苑	宮山田町 915

(カ) 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）

	名 称	所在地
1	グループホーム ホームタウン上河内	下小倉町 1234-1

(キ) 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

	名 称	所在地
1	特別養護老人ホーム 祥豊苑	宮山田町 915

(ク) 小規模多機能型居宅介護

	名 称	所在地
1	小規模多機能ホームタウン上河内	下小倉町 1234-1

※参考資料 「介護サービス事業所等一覧」宇都宮市公式WEBサイトより

イ 保育施設

(ア) 保育所

	名 称	所在地	種別
1	ゆずのこ保育園	松田新田町 483	公立保育所
2	ゆうゆう保育園	金田町 759-1	私立保育所

※参考資料 「平成 28 年度 保育施設入所のご案内」（平成 27 年 10 月作成）

宇都宮市役所公式 Web サイトより

(イ) 子どもの家

	小学校名	名称（愛称）	施設の場所
1	上河内中央小	学童保育 ゆずっこクラブ	校庭東（独立棟）
2	上河内西小	学童保育クラブ みちくさ	旧松風台公民館
3	上河内東小	東っこ元気クラブ	校庭東（独立棟）

※参考資料 『事務概要 平成 27 年度』

(5) 金融機関等

ア 郵便局

	名 称	所在地
1	上河内郵便局	松田新田町478-9
2	絹島郵便局	下小倉町1341-20

イ 銀行

	名 称	所在地
1	足利銀行上河内地域自治センター (A TM)	中里町181-3 (駐車場内)
	サンユー上河内店(氏家支店)(A TM)	中里町221-2

ウ JAバンク

	名 称	所在地
1	JA うつのみや上河内支所	下小倉町1218
2	JA うつのみや上河内地域自治センター (A TM)	中里町181-3 (上河内地域自治 センター敷地内)

※参考資料 各ホームページ『日本全国銀行・A TMマップ』・各銀行等・  
日本郵政

(6) 体育施設

・上河内体育館 所在地 中里町182-1

開 設 昭和56年  
延床面積 1,493 m<sup>2</sup> (2階建)  
施設概要 競技場 952 m<sup>2</sup>  
卓球場

・上河内運動場 所在地 中里町184-1

開 設 昭和52年(庭球場), 53年(野球場)  
敷 地 13,956 m<sup>2</sup>

施設概要 ①運動場 10,100 m<sup>2</sup> (野球1面)  
 照明設備  
 ②庭球場2面 (全天候型)

・ **宮山田運動場**      **所在地 宮山田町 2936**  
 開設                      昭和59年  
 敷地                      12,344 m<sup>2</sup>  
 施設概要                運動場 11,434 m<sup>2</sup> (野球1面)

・ **芦沼運動場**      **所在地 芦沼町 2191**  
 開設                      昭和59年  
 敷地                      12,834 m<sup>2</sup>  
 施設概要                運動広場 11,834 m<sup>2</sup> (野球1面)

・ **高間木キャンプ場**      **所在地 宮山田町地先**  
 開設                      平成13年  
 敷地                      4,635 m<sup>2</sup>  
 施設概要                屋根付調理台, 調理用かまど10基, 営火場2基

※参考資料 『市政概要 平成27年度版』宇都宮市議会事務局 2015年  
 「宇都宮市公式Webサイト」(2015年12月4日現在)

## 5 民俗

### (1) まつり・行事

行事名	実施時期・特徴
羽黒山神社の梵天祭り	11月23日に行われる羽黒山神社の例祭。江戸時代の中ごろに収穫を感謝する行事として始められたもので、約300年の歴史を持つ。かつては旧10月7日に行われていた。奉納する梵天は、その年にできた根付きの孟宗竹を使って竿にし、先端に房をつけたもので、若者30人あまりがそれを担いで今里地区を練り歩き、山頂の神社へ奉納する。

	かつてはこの祭りに合わせ、家庭では伝統食の「くされ鮎」が作られていた。
天下一関白神獅子舞	県下に広く分布する関白流獅子の始祖といわれ、栃木県無形文化財の指定を受けている。 8月7日の関白山神社の祭礼に奉納される。いくつかの演目の中でも、巫女舞は鬼退治の舞ともいわれ、藤原利仁の伝説にまつわるもので、関白獅子舞のみが演ずる独特なもの。
山倉様（上小倉地区）	7月丑の日に赤飯を炊き、どじょうを食べる。田植えが終わり、秋の実りを祈り祝うものと考えられる。
稻荷様（各地）	西の内は2月2日、下組4月3日、7月20日、10月19日、2月20日、中里中組2月8日（旧）に祭りをを行う。今里では「センドウ、マンドウ」と唱え大病を抑える祈願をした。
天神様（東の内）	10月25日、天満宮境内で祭りが行われる。
大杉様（山田地区）	10年に1回、御神体を入れ替え、その年の毎月27日に神輿を担いで集落内を回り、悪魔退散、家内安全を祈願した。 現在は年1回、「居ばやし」を演奏し、神輿を公民館に飾る。
金毘羅信仰	西の内では11月10日神輿をかつぎ集落を回る。滝の原では天狗の面を付け神輿を担ぎ歩く。東芦沼では4月10日、7月10日、11月10日に行う。冬室では天狗の面をかぶり神輿を各戸で「ヨウイ、金毘羅大権現悪魔を払ってヨイヤラサ」と唱えた。高間木では旧暦2月10日、10月10日、各戸1名の当番制で面を付け刀を携える者が各戸を回り悪魔祓いをした後、家人が神社へ参拝し賽銭を奉納した。高松では天狗の面を付け神輿を担いで各戸を回った。免の内では6月10日、神輿を担いで集落を回る。
念仏講・十九夜様	毎月19日に当番の家に女性が集まり、安産を祈願し、参拝後、宿に戻り、念仏を唱える例が多い。十九夜塔は、免の内、冬室、今里、松田、



	西の内など合計14基建てられている。
毘沙門天（西芹沼）	旧1月12日に祭りが行われる。西芹沼の毘沙門天は勝道上人の作と伝えられ、浄蓮寺に安置されていたが廃寺により毘沙門堂を建立した。当地の守護神としての信仰があり、12年に1回の御開帳によりその姿を拝むものとされている。
お釈迦様・薬師様	旧4月8日に釈迦の誕生を祝う。古くは花で飾った小堂を作り水盤に釈迦の像を安置し、甘茶かけをした。この甘茶で目をふくと目の病気にかからないという俗信が残る。また、高間木の薬師様には、眼病全治のお札として「め」の文字を書いたものが奉納される。
天王様	東の内では7月14・15日、西の内では7月7日に、除疫神の牛頭天王に豊作を願う。神輿や屋台が繰り出し、笛太古の音が夜空に響き渡り、地域の人々の賑わいの中を練り歩くのが一般的。
庚申講（関白など）	60日または60年ごとの庚申の日と庚申の年に行事が行われる。 当番の家で床の間に庚申様の掛け軸を掛け、餅をついて供える。ほかに、野菜の煮つけ、煮豆などの精進料理を用意し、参加者はこれを食しながら夜を徹して語り明かした。
古峯が原講（上小倉地区）	毎年当番の者が鹿沼市の古峯神社に参り、札を受けて各戸に配布する。

※参考史料 『上河内村史 下巻』 上河内村 1986年  
『関東地方の祭り・行事1』 栃木県教育委員会 2008年  
『自然への感謝と祈り 上河内町の年中行事』  
上河内町教育委員会 2002年  
『愛蔵版 とちぎの祭り100選』 月刊さつき研究社 1988年

## （2）民話と伝説

### 民話

「ダイダラボウシ」「浮き島地蔵」「お母石」「釜が淵の大鯉」「関東の萱土手」

「関白獅子舞」「消えた三日月様」「坂口やの疣地蔵」「逆さ掘」「銭神岩」  
 「稚児が淵」「なんてさまの赤鬼と青鬼」「にわとり様（荷渡大神）」  
 「毘沙門天」「三日月様」「源義家腰掛けの石」「無災内薬師堂」

**伝説**

「稲荷様」「オオカミとキツネの話」「首切り場と首洗いの池」「庚申様」  
 「地蔵様」「ドタメキ」「天祭」「天満宮と小倉の由来」「二十六夜様」  
 「龍神様と水神様」「山の神」

※参考資料 『ある日 ある時』 上河内町 2000年

『民話の海へ』 随想舎 1994年

『親と子で語る うつのみやの民話』 随想舎 2011年

『読みがたり 栃木のむかし話』 日本標準 2004年

**6 主な文化財・遺跡等**

	分野 指定区分	名称・所在地	特 徴
1	有形文化財 建造物 (市指定)	羽黒山神社本殿 (今里町)	昭和51年9月22日指定 創建については諸説あるが、康平年中(1058~1065)に、藤原宗円が宇都宮城の築城に際し、祈祷修法中に出羽三山との関連を意識し勧請されたものとされている。現在の本殿の造営は文政13(末)年(1830)。
2	有形文化財 (市指定)	羽黒山神社撞鐘堂 (今里町)	昭和61年12月8日指定 元禄14年(1702)9月に建立されたこの撞鐘堂(梵鐘)は、神仏混淆としての羽黒山神社(大権現)を位置づけるもの。
3	有形文化財 建造物 (市指定)	密嶽神社本殿 (今里町)	昭和63年7月26日指定 通称「隠居羽黒山」といわれる当神社は、嶽の頂上に三神を祭祀したので羽黒山三社大権現と呼称され、鎌倉時代後期の1322(元亨2)年創建と伝えら

			れている。1868（慶応4）年3月の神仏分離によって権現を改め「密嶽神社」と改称し、今日に及んでいる。
4	天然記念物 （市指定）	下小倉下組大杉 （下小倉町）	昭和51年9月22日指定 享保8年（1723）の五十里洪水の折、一面濁流の中、この大杉のところだけは水につからず、人々の命を救ったとされている。以降近隣の人々の厚い信仰を受け続けている。高さ18m、太さ3.8m、推定樹齢400年
5	天然記念物 （市指定）	東芦沼神社大杉 （芦沼町）	昭和51年9月22日指定 高竈神社の御神木として人々に崇われている。東芦沼神社は通称。推定樹齢450年 3本
6	天然記念物 （市指定）	つげ （中里町）	昭和56年12月24日指定 1本
7	天然記念物 （市指定）	羽黒山神社夫婦杉 （今里町）	平成3年9月20日指定 まっすぐに伸びた2本の幹が根本で1本となるこの杉は、神社の御神木として、またその名前から縁結びの木として人々の信仰を集めている。高さ30m、太さ4.5m、推定樹齢450年
8	記念物 史跡 （市指定）	桑名三平勝乗の墓碑 （今里町）	平成3年9月20日指定 桑名三平勝乗は、1660（万治3）年～1668（寛文8）年に奥平氏の家老を務め、1698（元禄11）年3月27日丹後宮津において死去（72歳）。三平の死後、三平の子兵部が真諦寺の莢高院殿の墓碑脇に分骨し墓を建立したものと考えられている。

9	記念物 史跡 (市指定)	藤原利仁公の墓 (関白町)	平成3年9月指定 古碑は宝篋印塔で、四面の梵字は「諸行無常偈」を表している。
10	彫刻	毘沙門天 (芦沼町)	この毘沙門天像は神護景雲元年(768)勝道上人が日光山に開山する折日光山麓多門坊に安置された。その後、元禄十一年(1700)七月三日浄蓮寺第十二世住持湛誉禅翁和尚が夢の中で「勝道上人一刀三礼の直作」の「毘沙門天」と知らされ、毘沙門堂を建立して安置した。毘沙門天像は12年に1度、虎年にご開帳される。
11	遺跡	山口遺跡 (宮山田町)	古墳時代の集落跡 少量の縄文・土師器破片、楕円形のピットを発見したのみで「遺跡の末端に位置するとも考えられる」と判断された。
12	遺跡	中里城跡 (中里町)	中世の城跡 別名峯山城、龍外城、青空御殿 長方形の郭を東・南・北側の三方に土塁・堀がめぐっている。単郭式のため、中里氏の居館とみられる。
13	遺跡	城山遺跡 (中里町)	中世の城跡 右岡城跡のこと 複郭構造をなす中世居館跡で、主郭と附属する北側の外郭、西側の複郭、南東の外郭とからなる。主郭の中央地点で「方形遺構」一基が見つかった。発掘は部分発掘にとどまり、ほとんど未調査のまま滅失している。
14	遺跡	沖ノ下遺跡 (中里町)	縄文中期～平安の集落跡 遺構の検出はなく、縄文土器、土師器、須恵器、陶器、磁器等

			の破片と、数点の石器が出土した。
15	遺跡	梨木平遺跡 (高松町)	縄文～中世の集落跡 四次にわたる発掘調査が行われ、昭和 54 年度に県指定に準ずる重要遺跡に選定され、保護されている。
16	遺跡	山向遺跡 (今里町)	縄文～平安の集落跡 東北自動車道建設による、減失予定地の発掘調査。丘陵鞍部から南緩斜面で、時期不明の楕円形土壇四基、平安時代の住居址五軒及び縄文・平安時代の各種遺物が発見された。
17	遺跡	古宿遺跡 (今里町)	縄文～平安の集落跡 縄文中期末から後期初に位置づけられる集石遺構十二基、埋甕遺構六基、土壇二十四基等を検出したが、全体的な状況については未発掘のため不明。
18	彫刻 (県指定)	木造 阿弥陀如来立像 (下小倉町)	平成 6 年 1 月 28 日指定 清泉寺 台座光背 附納入文書
19	工芸品 (県指定)	刀 銘 野州住源正義作 (上小倉町)	昭和 35 年 2 月 2 日指定 個人所有
20	工芸品 (県指定)	刀 銘 重勝 (上小倉町)	昭和 37 年 12 月 4 日指定 個人所有
21	工芸品 (県指定)	刀 銘 野州喜連川住正家 (上小倉町)	昭和 41 年 3 月 18 日指定 個人所有
22	工芸品 (県指定)	刀 銘 野州住道賛作之 (上小倉町)	昭和 56 年 7 月 31 日指定 個人所有
23	工芸品 (県指定)	短刀 銘 宗勝 (上小倉町)	昭和 56 年 7 月 31 日指定 個人所有

24	工芸品 (県指定)	脇差 銘 野苧住正平 (上小倉町)	昭和 58 年 8 月 19 日指定 個人所有
25	工芸品 (県指定)	刀 銘 陸奥守藤原将応 (上小倉町)	昭和 59 年 9 月 7 日指定 個人所有
26	工芸品 (県指定)	刀 銘 (表) 栗原彦三郎昭秀造之, (裏) 昭和八年十二月吉日以満州本溪湖産海綿鉄 (中里町)	平成 11 年 1 月 18 日指定 個人所有
27	書跡 (県指定)	下小倉村検地帳 (下小倉町)	昭和 60 年 5 月 31 日指定 個人所有

※参考資料 「宇都宮の歴史と文化財」HP

<http://st0011.nas931.utsunomiya.nttpc.ne.jp/ext/index.php>

『上河内村史 上巻』上河内村 1986年

上記表中の 11～17 以外の遺跡名は、P70～71 の「表2 上河内村の遺跡地名表」をご覧ください。

『うつのみや歴史探訪』塙静夫 2008年 随想舎

## 7 産 業

・産業のあらまし

鬼怒川水系がもたらす肥沃な土壌に恵まれた上河内地域では、昔から米づくりがさかんに行われてきた。すでに江戸時代には米どころとして名をなし、宇都宮藩への献上米となるほどであった。

戦後も農業立村を方針に掲げ、生産性の高い農業経営を目指し、圃場整備や農道・用排水路等の整備を進め、農地集約、経営規模拡大、効率的な生産流通体制の確立を図った。

※参考資料 『上河内町史 続編』宇都宮市 2008年

### (1) 農業

- ・鬼怒川水系を利用した良好な水田地帯であり、「みやおとめ」の主要な生産地である。
- ・整備された農地を活用し、麦・大豆の栽培が行われる。
- ・土地利用 鬼怒川の西側に位置し、地域内には西鬼怒川と山田川が流れ、良

好な水田地帯を形成している。水田率は94%と市内で最も高い。

- ・農家数 農家率が27.2%と2番目に高く、稲作農家率も78.2%と高くなっている。
  - ・JAブランド米「みやおとめ」の主要な生産地である。
  - ・麦・大豆農家数もそれぞれ117農家、62農家と多く、河内地区と並び、稲作からの転作も進んでいる地域である。
  - ・いちご農家数、にら農家数も市内で2番目になっている。
  - ・認定農業者数98（Ⅰ型52、Ⅱ型42、Ⅲ型4）平均年齢60.42歳
  - ・「ほたるの里 梵天の湯」には温泉施設や直売所の他、体験農園施設もある。
- ※参考資料 宇都宮市HP「第2次宇都宮市食料・農業・農村基本計画～「農業王国うつのみや」の実現に向けて～」

・梵天ゆず

ゆずはこの地域の特産品である。この地域の家の庭にはたいてい2、3本のゆずの木がある。梵天祭りには、ゆずが袋入りで売られる。

※参考資料 『かみかわちノート』上河内町企画課／編 上河内町 2007年

農業関係統計

(平成22年2月1日現在)

地区	農家戸数	農業従事者	1戸あたり経営面積	
上河内	833戸	1,908	209.6a	
全市	6,141戸	13,779人	170.5a	
経 営 耕 地				
地区	総 数	田	樹園地	畑
上河内	174,603	164,910	797	8,896
全市	1,046,929	903,059	38,255	105,615

※参考資料：政策審議室（世界農林業センサス、農業センサス結果）

(2) 鉱業

- ・謡辻（うどうつじ）金山跡地、他

金銀鉱山の発掘跡が散在する。江戸時代初期、東照宮の造営に用いられたとの伝承があるが定かではない。日中戦争の深刻化と共に金銀鉱山は閉山した。

※参考資料 『ある日ある時 上河内町の民話・伝説』上河内町 2000年

『ふるさとの名所・旧跡を訪ねて（宇都宮市上河内地区）』DVD

上河内・地域の宝探し隊 2011年

『上河内村史 下巻』上河内村 1986年

工業関係統計 (平成 25 年 12 月 31 日現在。単位：百万円)

地区	事業所数	従業者数	製造品出荷額等	付加価値額	資産投資額
上河内	33	1,409 人	29,404	15,015	949
全市	537	29,852 人	1,810,262	518,815	58,056

※参考資料：政策審議室（工業統計調査結果）

### (3) 商業

商業関係統計 (平成 19 年 6 月 1 日現在。単位：百万円)

地区	事業所数	従業者数	年間商品販売額	売場面積
上河内	56	540 人	27,761	4,119 m <sup>2</sup>
全市	5,901	50,129 人	2,835,926	750,288 m <sup>2</sup>

※参考資料：政策審議室（商業統計調査結果）

宇都宮市統計データバンクより

## 8 交通

<河川交通>

・鬼怒川沿いに逆のぼってきた先住民たちは鬼怒川の河原を中心に盛んに集落を作り、生活を営んだことが近辺から発掘される遺物からうかがうことができる。

・奈良時代には「衣川駅家」と称して交通・公益の中心地であった。また、交通機関の発達しなかった時代には鬼怒川は水も豊富で舟の帆柱が林立し宇都宮近在の荷物の集散が盛んに行われた。

・上河内は昭和初期にいたるまで、陸上輸送の主役は馬であったので、輸送量やその範囲も限られたものであった。したがって諸物資の輸送には鬼怒川を大いに利用したので、舟運に依存するところが実に大きかった。

※参考資料 『上河内村史 上・下巻』上河内村／編 上河内村 1986 年

<バス等>

○乗合馬車

・最も大きな変革をもたらしたのは、明治 18 年の東北線鉄道の出現であって、これに伴って上河内地域と宇都宮駅とを結ぶ旅客輸送に乗合馬車が運行されるようになった。上河内村に乗合馬車が最初に走るようになったのは、創業年月の記録こそ不詳であるが、別名「トテ馬車」と呼ばれた乗物が大正の終わりごろ、中里宿・宇都宮間を往復したことであろう。その後、今里・宇都宮間も往復するようになり、これは上河内村民の重要な交通機関として、乗合自動車「定



期バス」が開通するまで続いた。

#### ○人力車

・上河内地域にも人力車はあったが、定期的に路線を往来する乗物としてではなく、家事のかたわら営む人が幾人かを数えた。この人力車は昭和22年ごろを最後に姿を消した。

#### ○定期バス

・貨客の輸送には、荷馬車・人力車・乗合馬車などと変化してきたが、自動車の普及と発達によって、大正中期より地方の路線にもバス交通の営業が始まり、急速に輸送が変わっていった。乗合馬車路線には乗合自動車が走るようになって、昭和10年後に宇都宮東埜田町に事務所を置いた河北自動車会社が宇都宮・中里間、宇都宮・玉生間の二路線を国鉄宇都宮駅と結んだ定期路線としてバス四台を所有して往復するようになった。

この河北自動車と前後して、宇都宮市上河原町に事務所を有した菊池自動車が、宇都宮・下ヶ橋間を運行するようになり、旧絹島南部地域の人々には宇都宮との交通機関として大いに利用された。

※参考資料 『上河内村史 上・下巻』上河内村／編 上河内村 1986年

#### ○関東バス

・昭和17年になって、河北自動車、菊池自動車は関東自動車株式会社に買収されて、さらに路線が延び、芦沼を経て、下小倉まで延長された。昭和40年には更に中里原の駐車場が折返し点となり、桜通り国鉄宇都宮駅経由で定期運行されている。

※参考資料 『上河内村史 上・下巻』上河内村／編 上河内村 1986年

#### ○町営バス

・上河内では長い間「関東バス」の呼称で親しまれている関東自動車株式会社の運行によるバス路線が利用されてきた。宮山田線（中里原－宮山田）と白沢・中里原線（白沢－中里原）の路線がそれで、上河内にあっては唯一の公共交通機関であった。この2路線が廃止されたのは平成4年4月末のことである。

バス路線の主な利用者が通学する生徒や通院する高齢者などマイカーに頼れない人々であることを重視した村は、従来のバス路線を継承する形で村営バスの運行に踏み切ることとした。のちに「ユッピー号」の愛称で住民に親しまれる村営バスは、関東バス廃止の翌日の平成4年5月1日から運行を開始した。平成6年7月の町制施行に伴って、村営から「町営」に衣替えしたユッピー号は、平成13年4月2日から、従来の路線に加えて、氏家駅西口乗り入れ、西小学校及び松風台乗り入れなどの路線を新設したほか、謡辻・高間木・小室地区へと路線を延長。バスも新に1台導入して2台で運行されることになった。

※参考資料 『上河内町史 続編』宇都宮市 2008年

### <鉄道>

・上河内村地域通過の路線は、河内町古田から芦沼、下小倉へと北上し、現在の氏家大橋の地点を通過、長久保へと敷設された。上河内村に初めて線路が敷かれたが、停車駅はなかったので、最寄の宇都宮、古田、長久保まで出向いて乗車した。西鬼怒川橋は明治19年、東鬼怒川は明治20年に完成した。

・明治14年10月に日本鉄道会社が設立されたが、それ以前に上河内村今里の笹沼長平らが地元有志らと、本県初の鉄道敷設計画の運動を展開した。笹沼長平らは、会社による汽車の運行を計画したが、時期尚早などの周囲の状況から当局の許可がでなかったため、建設の具体化へは進めなかった。

※参考資料 『上河内村史 上・下巻』上河内村／編 上河内村 1986年

### <道路>

・交通を道路網から見ると、主要地方道（県道、藤原宇都宮線）が中央部を南北に縦断し、県都宇都宮市と30分で結んでいる。東部には県道下小倉線、西部には県道小林坂面線と、それぞれ他市町とを結ぶ広域生活圏としての役割をはたしている。また、東西には国道293号線、北西部には東北縦貫自動車道が、それぞれの県道と交叉しながら通過しており、東北道宇都宮インターまで15分、国道4号線まで15分と交通の便に恵まれ、道路の整備と共に交通運輸条件は比較的良好な地域だ。

※参考資料 「うつのみや商工会議所」HP

#### ○東北自動車道

・栃木県内における東北自動車道の延長は115.2キロメートルで、上河内町内の通貨距離は7.99キロメートルである。路線は町域を斜めに二分するように南西から北東に縦貫し、宇都宮市から上河内町高松に入り、中里から今里を経て西鬼怒川を渡り、上小倉に出て鬼怒川の鉄橋を通過して塩谷町に抜ける。

・上河内町内に設けられた上河内SAは約9万平方メートルの敷地を有し、他の佐野SA、那須高原SAをしのぐ県内最大の施設である。しかし、平成17年4月22日から上河内SAにおいて「スマートIC」と呼ばれるETC（自動料金収受システム）専用ICの社会実験が実施されたことをきっかけに、東北自動車は上河内町にとってぐんとアクセスしやすい身近な高速道路に様変わりした。

#### ○一般国道

・国道293号は、上河内町域を走る唯一の一般国道で、昭和45年4月、それまでの県道氏家鹿沼線が国道指定化されたものである。上河内町域では氏家大橋から下小倉、中里、免ノ内、高松を横断する。

○県道

・上河内町域を走る県道には、町の中心部を縦貫する県道63号藤原・宇都宮線，西部に向けて縦貫する県道159号小林・逆面線，そして東部を南下する県道239号河内・上河内線の三路線がある。

・県道63号藤原・宇都宮線は，栃木県日光市（旧塩谷軍藤原町）から宇都宮市に至る県道（主要地方道）で，総延長52.4キロメートル，上河内町内の通貨距離は8.4キロメートルである。

・県道159号小林・逆面線は，総延長約11.5キロメートルで，上河内町域部分は約9.5キロメートルである。

○町道

・上河内町の町道は，平成18年度現在，全348路線，総延長は220キロメートルである。

※参考資料 『上河内町史 続編』宇都宮市 2008年

## 【参考】 宇都宮市全体から見た上河内地区の状況

### （1）上河内地区のデータ

- ・面積（宇都宮市統計データバンクデータ）
- ・人口世帯数（平成22年住民基本台帳データ）

項目	宇都宮市	上河内地区	上河内地区の順位
人口	511,739	9,425	24
世帯数	210,482	2,929	31
面積	416,785,368	56,718,860	1
人口密度	1,216	166.2	38
年少人口構成率	14.4	12.8	31
生産年齢構成率	66.1	65.2	25
高齢者人口構成率	19.5	22.0	12

### ・人口動態調査（平成26年）

項目	宇都宮市	上河内	上河内地区の順位
出生数	4,835	97	14
死亡数	4,552	108	13
自然増人数	283	-11	11
転入者数	20,162	367	13

転出者数	18,861	373	13
社会増数	1,301	-6	11
人口増加数	8,538	-17	14

(2) 世帯・家族

地区	核家族世帯数	単独世帯数	高齢夫婦世帯数	高齢単身世帯数	母子世帯数
宇都宮市全体	58,796	71,628	17,777	14,252	14,436
上河内地区	930	375	231	155	213

核家族化

順位	1位	2位	3位	備考
地区名	五代若松原	河内	陽光	上河内 10位
核家族率	65.6	64.6	63.8	58.7

(4) 高齢者

高齢者の世帯

65歳以上の単独世帯		
順位	地区(町名)	割合(%)
1	鶴田町	4.24
2	駒生町	1.85
3	石井町	1.74
4	今泉町	1.48
5	中岡本町	1.47
6	平松本町	1.44
7	宝木町2丁目	1.30
8	瑞穂2丁目	1.17
9	御幸ヶ原町	1.14
10	西川田町	1.09

65歳以上の夫婦世帯		
順位	地区(町名)	割合(%)
1	鶴田町	4.60
2	下岡本町	2.05
3	石井町	1.82
4	駒生町	1.68
5	平松本町	1.37
6	中岡本町	1.23
7	御幸ヶ原町	1.21
8	西川田町	1.20
9	今泉町	1.17
10	東峰町	1.16

(5) 住宅環境

持ち家(H22国勢調査)

桜 持ち家 2,015 借家 1,865 その他 7 計 3,887

持ち家率 順位	地区名	持ち家戸数	持家率
1	篠井	721	98.0
2	上河内	2,680	91.5

3	城山	4,608	79.5
4	河内	9,398	78.2
	宇都宮市全体	121,869	57.9

借家（H22国勢調査）

順位	地区名	借家戸数	借家の 占める割合
1	城東	2,623	66.1
2	峰	4,099	63.5
3	今泉	3,304	62.8
38	上河内	244	8.3
市全体		88,182	41.9